

中国における Web メディアとナショナリズム

—2022 年北京冬季オリンピックにおける weibo 報道とネット ユーザーの反応を中心に—

ZHOU Yifan

1. 研究目的及び研究方法

新型コロナウイルス感染症の拡大以降、国際的なスポーツイベントは開催条件や社会的受容のあり方に大きな変化を受けてきた。2022 年北京冬季オリンピックもそうした状況の下で実施された大会である。こうした状況を踏まえ、本研究の目的は 2022 年北京冬季オリンピックを事例として、中国のネットワーク空間においてスポーツイベントをめぐる報道と利用者の反応がどのように交錯し、ナショナリズム的言説として形成されていくのかを明らかにすることである。とくに、報道内容そのものだけでなく、それに対して寄せられるコメントや評価を含めて分析することで、言説の生成過程とその変化を具体的に検討する点に本研究の特徴といえる。

研究の分析対象としては 2022 年北京冬季オリンピック期間中に Weibo 上で発信されたスポーツ専門メディア「新浪体育」の投稿およびそれに付随する利用者コメントを取り上げる。新浪体育は専門的な競技情報を継続的に発信する一方で、大衆的な議論と結びついており、報道と受容が同一のプラットフォーム上で並置される点において本研究の目的に適した分析対象である。

研究方法としては北京冬季オリンピック期間中の投稿とコメントを収集した上で、開幕式、競技期間、閉幕後という時間的区分に基づき整理し、各段階における言説の特徴を比較する。これにより、ナショナリズム的表現が固定的なものではなく、出来事の進行や論点の変化に応じてどのようにその現れ方を変化させていくのかを検討する。

2. 研究内容及び研究結論

本研究は三つの章から構成されており、それぞれ異なる視点から 2022 年北京冬季オリンピックをめぐるナショナリズム的言説を検討している。

第一章では2022年北京冬季オリンピックが開催された社会的及び歴史的背景を整理し、本研究が同大会を分析対象とする意義を明らかにした。具体的には、パンデミックという特殊な社会状況の下で開催された点に注目し、新型コロナウイルス感染症の拡大により、人々の移動や国際交流が制限される中、国際スポーツイベントが社会的な連帯や秩序回復を象徴する存在として受け止められるようになったことを示した。とりわけ中国においては防疫政策の下で大会が円滑に実施されたことが国家の運営能力を示す出来事として受け止められていた点を指摘した。また、冰雪経済や地域振興政策、国際政治環境といった要素を整理することで、2008年北京夏季オリンピックとは異なる文脈の中で2022年大会が位置づけられていたことを示した。

第二章では中国のWebメディア環境に着目し、分析対象とするメディアの位置づけを明確にした。具体的にはWeibo、知乎、TikTok、小紅書の比較を通じて、Weiboが情報の公開性や即時性、利用者反応の可視化という点で、スポーツイベントをめぐる世論の変化を捉えやすいプラットフォームであることを示した。その上で、Weibo上のスポーツ専門メディアである「新浪体育」を分析対象として取り上げ、専門的な競技報道と利用者による大衆的な議論が同一の表示空間に現れる点に着目した。

第三章では北京冬季オリンピック期間中の新浪体育の投稿および利用者コメントを対象に、開幕式、競技期間、閉幕後の三段階に分けて言説分析を行った。その結果、ナショナリズム的言説は大会期間を通じて一様に現れるのではなく、出来事の性質に応じて変化することが明らかとなった。開幕式では国家イメージや集団的達成への同一化が強調され、競技期間中には判定や公平性をめぐる対立的な言説が顕在化した。一方、大会終了後には議論が沈静化し、出来事を振り返る比較的落ち着いた評価が見られた。

以上の分析から、本研究は北京冬季オリンピックをめぐるナショナリズム的言説が報道と利用者反応との相互作用を通じて形成され、時間の経過とともにその形を変えていく過程を明らかにした点に結論がある。

3.今後の課題

本研究は2022年北京冬季オリンピックをめぐるナショナリズム的言説の形成過程を検討するため、Weibo上のスポーツ専門メディア「新浪体育」の投稿および利用者コメントを分析対象としてきたが、研究設計上いくつかの課題も残されている。

第一に、分析対象を新浪体育に限定した点である。本研究では、専門的報道と利用者反応が同一空間に現れる特性に着目したが、人民日報などの公式メディアやKOLによる個人発信との比較は行っていない。そのため、異なるメディア形態において同一のスポーツイベントが

どのように語られるのかについては十分に検討できていない。

第二に、本研究は中国国内のネットワーク空間に分析対象を限定しており、外国メディアや海外の受け手による評価は扱っていない。今後は、国際的な報道や受容との比較を通じて、北京冬季オリンピックをめぐる言説の特徴をより多角的に捉える必要がある。

また、本研究は大会期間およびその直後を中心とした比較的短期的な分析にとどまっているため、ナショナリズム的言説の長期的な影響については明らかにできていない。今後は時間軸を拡張した追跡的分析を行うことで、スポーツイベントとナショナリズムの関係をより継続的な視点から検討することが課題となる。